

*はからずも、ちょうどその時

ルツは、落ち穂拾いに向かいました。その向った畑は、はからずもボアズの畑(3節)、そしてちょうどその時、ボアズがやってきました。(4節)人の目にははからずもに見える出来事ですが、これらの言葉には神様の見えざるご計画、神様の御手がこの出来事の背後であって導かれているということを表しています。神様は、時、場所、人を用いて働きかけられます。ルツはボアズ出合い、そしてボアズから特別な恩恵を受けその日多くの落ち穂を拾うことができました。神様はボアズを用いて、徐々にルツを祝福され始めました。ボアズの存在、そして彼が裕福であることさえ神様は備えておられました。

*背後におられる方を見る

ルツは大量の落ち穂とボアズからもらった食料を持ってナオミの待つ家に帰ります。ナオミはこの収穫がボアズによって与えられたこと、さらにボアズは買い戻しの権利のある親類であることを喜びます。ナオミは自分とルツだけでなく先に死んだ夫や子どもたちの死をも通して神様の恵みによって今新しいことが始まるということをナオミは感じ取りました。ナオミのすごいところはこれを偶然で終わらせなかったことです。これらのすべての背後にあって主が働かれ、整えてくださったことだからこそ起こったと彼女は信仰を持って理解しています。いつも神様の働きに目を留めて生きることは幸いです。神様が日常のあらゆるところで良いことも悪いこともすべて神様の計画にあると知ることができるからです。神様が私たちに最善を尽くして働いて下さっていることを信じて生きるなら私たちは人生をあきらめず投げやりになることもなくルツのようにどんな時も神様の前に誠実に生きていくことができます。ナオミのように悲しみの時も神様の働きに敏感であり神様の惜しまない恵みをしっかり受け取ることができます。そして様々な局面で神様が愛してくださっていることを見出せる人は、悲しみの中にあっても主を喜ぶことができます。その人生は喜びが絶えることはありません。

*まとめ

ルツ記の背後には確かな神様の導きがあります。同じように私たちの背後にもいつも神様の導き、働きが確かにあります。私たちは偶然に生かされているのでもないし、目的もなくただ毎日が過ぎていくのではありません。私たちにとってははからずもなことすべてが、神様の計画の中にあります。神様は時、場所、そして人を用いられ、この小さな私たちを愛し、祝福してください。(マタイ6:26、30、ローマ8:32) 私たちに目を留めてくださる神様に私たちもしっかりと目を留め、どんな境遇にあっても主をほめたたえる者でありたいと思います。神様は私たちに関わってください。だから私たちは神様が共におられる人生に期待して、喜びを持って、毎日を主のために積極的に生きていきたいと願います。